

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京丹後市立弥栄病院 新棟	階数	地上5F
建設地	京都府京丹後市峰山町杉谷889番地	構造	RC造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	477 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2016年5月1日
敷地面積	15,360 m ²	作成者	東岡 正康
建築面積	3,116 m ²	確認日	2016年5月1日
延床面積	9,629 m ²	確認者	前田 幸宏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 97% (178 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 96% (176 kg-CO₂/年・m²)

④ 上記+: 96% (176 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 多数の人が利用する病院として満たすべき環境や機能に配慮して設計を行った。 		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 遮音等級の高い建具で外部騒音を遮断するとともに、F☆☆☆☆建材を採用し、化学汚染物質の放散を抑制した。 下屋・ロールスクリーンを設置することで昼光制御を行い、空調設備負荷の軽減・クリアに配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> 病室1床あたりの面積を多くとり、快適な内部空間を確保した。 建築基準法に定められた50%増の耐震性を有し、建物の安全性・信頼性を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋上の設備機器置場は目隠しルーバーで覆い、瓦屋根の設置や外壁の色彩に配慮した和風デザインの外観により、周囲の景観との調和に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの活用として屋上に太陽光パネルを設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存建物の躯体を再利用している。 内外装にリサイクル資材を活用し、指定化学物質を含有しない材料を使用した。 GL工法やLGS下地を使用し全てボード張りとする事で、改修・解体時の分別に配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁断熱とペアガラス窓により熱損失を防止した。 管理用駐車場を確保するなど十分な駐車輪台数を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される